



え・小島サエキチ

物を扱う 商売の心構え

お 世話になった人に、「ありがとうごさいました」と声をかけて、役に立ってくれた物に対して、「ありがとう」「ご苦労さま」と言えるでしょうか。

私たちは仕事をする上で、さまざまな物（商品、製品、機械、道具など）を扱います。使った道具を元に戻さなかったり、機械の手入れを怠るなどの不始末は、思わぬミスを生じさせ、信用を失うことにつながります。

また、仕事に限らず、脱いだ履物を揃えない、傘のしずくを乾かさなないなど、日常瑣末な物事の始末をきちんとしないことが、実はいろいろの不幸の原因になっているのです。

感謝を込めた後始末の実践は、物事を成功させる第一歩です。

*

A社長は、自社商品の販売を委託する際に、その店のトイレを見るところに、トイレがきれいに清掃してあれば「この店は信頼がおける店だ、大丈夫だ」と判断しています。反対に、表向きはいく

らきれいでも、トイレがひどく汚れているような会社は、注意して判断することです。

社内がきれいに清掃されているか、よく整理整頓されているかどうかは、そのまま会社全体の印象につながります。中でも「トイレの後始末は、そのまま会社の業績や信用に直結している」というのが、長年の経験から得たA社長の判断基準なのです。

*

返品された商品は、どこの会社にとつても喜ばしい「物」ではありません。倉庫に入れっぱなしで放つてある会社も多いでしょう。

もし売れ残った商品を「不要な物」「やっかいな物」と捉えれば、その心そのままに、商品も不要なものになってしまいます。

紙製品メーカーのS社長は、精

魂込めて作った商品が返品されてくると、心の中で「ご苦労さまでした。今度は間違いなくお客さまの手元に届くようにします」と、祈りながら念じています。そして、出来上がった時と同じように新し

い箱に入れ、限られたスペースを創工夫して、整理しています。

S社長の心がけは、いつしか社員にも浸透していききました。やがて物にも反映したかのように、一度返品された商品も売れていったという体験をしています。

物は、人と同じように生きています。人の心がそのまま反映するという点では、むしろ人間以上の精密さです。商品や製品によって生計を為している人は、商品や製品を大切に扱い、どんなに感謝してもし過ぎることはないでしょう。後始末は、その感謝の心を行動に表わす実践でもあります。

物を扱う仕事をする上での心がけは次の通りです。

①物の整理整頓、場の清掃に徹しましょう。

②美しい陳列を心がけ、店内を明るい装飾にしましょう。

③商品や製品に対する感謝の式を取りましょう。

後始末によって今年一年の仕事の締めくくりをして、輝かしい新年を迎えましょう。